

目 標

我々、いわき経済同友会会員は、企業経営者の異業種交流活動を通して、三つの目的を達成し、仲間の連帯を深め、地域経済の発展と活性化をはかり、夢と希望に満ちあふれた地域社会づくりをめざします。

SEA

いわき経済同友会
IWAKI

10月号／2016年10月1日発行

3つの目的

- 1つ よい社会をつくろう
- 2つ よい経営者になろう
- 3つ よい経営環境をつくろう

9月13日(火)
19:00～

9月通常例会

会 場 いわき建設会館

演題「江戸時代の磐城平城下一鳥居・内藤家時代を中心に」

講師 いわき市文化財保護審議会委員 渡辺 文久 様



皆さんこんばんは、本日はいわき市の歴史について話して頂きますが、「賢者は歴史に学ぶ」ということで地元の歴史について勉強をしていきたいと思います。

できましたら、グループ会で毎月いろいろな場所へ行って研修しておりますので、是非そちらにも参加して頂きたいと思います。

この9月10日には『超高速参勤交代 リターンズ』が上映されています。会社の皆さん、ご家族と共に是非見に行ってください。経済同友会のメンバー、いわき市長が出演されているということですから、どこに出られるかよく目を凝らしてご覧ください。本日は渡辺先生よろしくお願いします。



講演会内容

「江戸時代の磐城平城下
—鳥居・内藤家時代を中心に—」

いわき市文化財保護審議会委員 渡辺 文久 様
はじめに

いわき市の中心である平は、江戸時代の磐城平藩時代に磐城平城下として発展し現在の基を築いたという事ができる。本公演では、鳥居家・内藤家時代を中心に城下町としての平の建設と発展についてみていきたい。

1、鳥居家時代の磐城平城と磐城平城下

1) 磐城平城の建設

a) 関ヶ原の戦い後取り潰された磐城貞隆にかわり、慶長7年(1602)、鳥居忠政が父元忠の伏見城籠城戦での戦功により磐城四郡のうち10万石(のち12万石)を与えられ入部する。忠政は岩城氏の居城であった飯野平城を廃し、阿武隈丘陵の東へ伸びた大地の東端の急峻の地を選び慶長8年(1603)より築城を始める。山城である飯野平城からより領国支配に便利で大規模な城下町を建設できる平山城であり、周囲の湿地を埋め立てるなど難工事で完成まで12年を要し、丹後沢の人柱伝説も伝わる。

b) 磐城平城は全体的に土手が多く、石垣は本丸の主要部分に限られている。また石垣の積み方は自然石を用いた野面積みという工法で、石工の技能集団である穴太衆の関与がみられる。

(図1・図2)

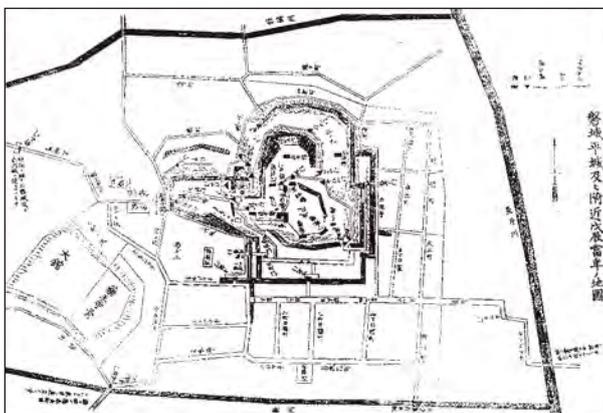


図1 磐城平城城下及び付近戊辰当年/地図(『戊辰私記』より)



図2 磐城平城戊辰当年現在拾櫓/内六櫓/図(『戊辰私記』より)



2) 磐城平城下の建設

a) 戦国時代から城郭には城下町が建設されはじめる、近世にはいと諸藩の領国経営の中心として城と城下町の建設ラッシュがおり、17世紀前半は都市建設の時代を迎える。

近世の城下町の都市計画は町割りといい、都市空間的には屈折した街路、武家地、町人地、寺社地といった身分による居住といったプランが見られる。建築的には身分により武家屋敷、町屋、寺社建築という明確な違いがある。

b) 城下町の建設にあたり、鳥居家は旧岩城家の家臣や、在地の有力商人や職人を移住させ経済の発展を図っている。加えて紺屋町を八幡小路から現在地へ移転するといった町ぐるみの移転政策もとっている。

鳥居家時代に磐城平城を中心に西に大身の武家地、東に小身の武家地、南西に寺社地、南に町人地という基本的な町割りが完成する。

c) 町地の管理は町人地は各町の町人がおこない、町ごとに木戸が設けられ、防災のための手桶やはしごを備えるほか、日常の管理では町内の清掃も町ごとでおこなうこととされた。

2、内藤家時代の磐城平城下

1) 内藤家の入部と磐城平城下

鳥居家は元和8年(1622)磐城より出羽国最上郡に22万石で転封となる。代わって内藤政長が上総国佐貫より7万石で入部する。同時に息子の忠興も2万石、政長の女婿の土方雄重は2万石(磐城内の所領は菊田郡1万石)で入部する。

平の町割りは鳥居家時代に原型ができたが、内藤家時代においても、慶安年間に新川(現在の古川)の開削をおこなうなど城下町としての整備は続けられる。

2) 内藤家時代の城下町

a) 内藤家は町の発展政策をとる。慶安3年(1650)四町目に五十集問屋(魚問屋)の設置が許可されたほか、延宝8年(1680)には絹呉服の商売が許されている。元文3年(1738)には余剰米を藩が買い上げ三町目・五町目・紺屋町の商人に米

の販売を許している。また、同4年には棒手振が藩から公認されている。

さらに毎月2・8がつく日には町には市が立った。

- b) 正徳元年(1711)の「諸品覚書」には平城下の人口は、士は譜代から足軽まで含めて4260人、寺社関係は498人、町人3325人(男1750人、女1575人)の計8083人、家数は631軒。

商売の職種は漬物屋10軒、木葉屋3軒、打綿屋16軒、肴屋34軒、穀屋9軒、瀬戸物売り3軒、菓子屋1軒。その他酒株57本、酒造高290石。

3、安藤家時代の磐城平城下

安藤家時代の磐城平城下の様子は宝暦11年(1761)に書かれた「磐城枕友」に、「月ごとに二八の市をなさしむ、近七八里の裏よりして群集をなす、街衛広くして当日には街中に仮に二行の店を

惣して此城は崇高くして際深く四面の外郭五重三重に重りて高櫓復道日月を隔離す各門鎮護の卒開闢其厳重なり塙上には松杉珍樹雲を凌ぎ池には魚龍常に遊躍す桜楓樹の類も尚所々にありて春秋おのつから詩哥の詠に乏しからず月の夜宵の朝風騒の人情を潜む又變なき城なり士家は外郭を閉鎖して語誦の声美はしく擊劍擊馬の習ひ常に行路の人を畏敬せしむ南面に市井を開き有庶且富り人遊ても乞食なる者を見る事なく月ごとに二八の市をなさしむ遠近七八里の裏よりして群集をなす街衛広くして当日には街中に仮に二行の店を構へ貿易の品々飴り並へ或は地上に散し布其買ものは数を尽して多くして且美し炭薪は時をわかつ山菜葉草甚多し四時各其美を出す馬には人人には馬老若男女僧道巫祝何を数下のみならん 凡此市井に入路五道あり或人一日巳刻なり午刻迄一方の馬数をかせへしに七百六十三ありしとかや五道朝よりの人馬の敷推てこれをおもふへし魚は東海の美を尽し小名四ッ倉の浜より日毎に馬にて輻輪す儲積くして味美なりたとへは鯛魚をもていへは其長さ一尺四五寸錢三四十をもちかふ標方頭魚野鯉鱈の類甚多して積こと山のこし其余無は希なり故に至て貧敷民といへとも老人病者を養ふに其つかへ易しされ

史料1 「磐城枕友」

構へ、貿易の品々を飾り並へ、或は地上に散し布其買ものは数を尽して多くして且美し」

【現代語訳】

月の2と8のつく日には城下に市が立ち、遠近の7、8里(28から32キロ)から人々が群がり集まってくる。街区は広くて一日には街中に2列の仮設の店を構え、交易の品々を飾り並べ、あるいは地面に置いた布や買ひ物は数が多くかつ美しいとあり、平が磐城の経済活動の中心地であったことがわかる。

(史料1)

おわりに

磐城平城下は磐城平城の城下町として建設され、江戸時代を通じて磐城四郡の中心地として発展し、その基本的性格は現在まで続いているということが出来る。

【主要参考文献・史料】

- 『譜代藩の研究—譜代内藤藩の藩政と藩領—』八木書店 1972
『いわき市史』第2巻 近世 いわき市教育文化事業団 1975
『新しいいわきの歴史』
(『いわき地域学会図書10』) いわき地域学会 1992
『いわき市史』第9巻 近世資料 いわき市教育文化事業団 1972
『戊辰私記』味岡礼質 1903
「諸品覚書」(内藤家文書)

講師プロフィール

渡辺 文久(わたなべ ふみひさ)

1969年いわき生まれ。

2004年日本大学大学院文化研究科博士後期課程修了

いわき市文化財保護審議会委員

いわき市石炭・化石館勤務

9月グループ会報告

第1グループ会

■日時 9月30日(金曜日) 19:00~
■場所 イタリアンコート

二つのグループで合同開催をした。

28年度に入り6カ月が過ぎ、今までの研修をふまえ意見交換をした。

普段のメンバーだけでなく、他のメンバーが加わり楽しい交流会が出来ました。

高萩会員よりおいしいワインを頂き、和やかな懇親会になりました。

第2グループ会

■日時 9月30日(金曜日) 19:00~
■場所 イタリアンコート

経営という視点で第2G会と合同で納涼会を開催した。普段のG会ではできない会員間の情報交換及び懇親を深める事ができた。

結果的に個人及び企業間の提携に繋げることができ有意義な会となった。

反省としては案内の日程が短かったことにより参加者が少なかったこと。

第4グループ会

■日 時 9月24日(土曜日) 8:00~
 ■場 所 栃木県栃木市方面

第7回(9月度) 移動グループ会：栃木県栃木市内の文化財を訪ねる。

栃木市の町の中心部には巴波(うずま)川が流れ、巴波川を利用した舟による運搬が江戸との交易を結び、栃木の商業は大いに発展した。江戸からは日光御用荷物や塩、鮮魚類などが運ばれ、栃木から江戸へは木材、麻、木綿などが運ばれた。それらの交易で財を成した木材回漕問屋の蔵が巴波川の岸辺に建ち並び、風情のある蔵の街の景観を残している町でした。

- 1 とちぎ山車会館・東京の山王祭に使用されていた、静御前の山車を購入したのが、きっかけとなり今では新旧あわせて、6台の山車が秋祭りに市

内を練り歩くそうです。

- 2 巴波川に観光遊覧用の小舟ゆっくりと行き交い、「蔵の街」としての栃木を象徴する風景が見られた。
- 3 塚田歴史伝説館・塚田家は江戸時代後期から巴波川の舟運を活かし木材回漕問屋を営んできた豪商で、巴波川沿いに120mにおよび黒塀と白壁土蔵があり、栃木市の代表する建物です。
- 4 栃木市は、美味しいお蕎麦もあり「太郎庵」にて、お蕎麦とナマズの天ぷらを頂きました。
- 5 あだち好古館・江戸末期から明治中期に建てられた呉服商の蔵を改修し、館内には浮世絵錦絵など江戸情緒を感じさせる美術品が多数陳列されていました。
- 6 岡田記念館・岡田家は550年以上の歴史を持つ旧家で、江戸時代には畠山氏の陣屋となっていました。岡田家伝来の宝物が展示されていました。

30周年記念式典 11月7日(月)

会 場 パレスいわや 14:00 集合 17:00 講演会予定
 15:00 受付開始 18:30 祝賀会
 会 費 5,000円 16:00 式典開始

記念講演講師 衆議院議員 小泉 進次郎 様

いわき経済同友会 今年で創立30周年を迎えます。一昨年より、創立記念式典を行うべく、準備をすすめて参りました。新たなるいわき経済同友会を目指して、「元気な社会づくり・元気な地域づくり」を柱に、これから先30年・50年の経済同友会活動を進める一つの区切りとして大事な式典でありますので、会員各位には、ご多忙かと存じますが、万障繰り合わせの上ご出席を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※酒席を考慮し、送迎バスを準備いたしますのでご利用下さい。乗車人数が10名以下の場合、送迎バスは運行いたしませんので、ご了承下さい。その時は、送迎バスを利用する方にはご連絡致します。

いわき経済同友会
ご入会のお薦め

いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます

●会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。お問い合わせは下記へどうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18いわき建設会館4F
 TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211
<http://www.seaiwaki.jp>
 E-mail: doyukai@triton.ocn.ne.jp

発行 いわき経済同友会 安島 浩代表幹事
 編集 情報委員会 委員長 坂本和久
 副委員長/川崎憲正・田村慎太郎・四ツ倉隆裕
 常葉修一・山崎勇一郎